

あいち病害虫情報 最新情報

令和4年9月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

台風14号による強風雨にご注意ください

台風14号が9月19日（月）ごろに東海地方付近を通過することが予想されています。台風通過後、ほ場の状況を確認するとともに、強風を伴う雨で被害を受けた作物は、傷口から病気が感染するおそれがあるため、殺菌剤による防除を実施しましょう。

トビイロウンカ

9月上旬に県内各地で本田調査（12地点43ほ場）を実施したところ、東浦町、岡崎市及び豊川市の水田で短翅型成虫が確認されました。詳細は9月12日発表の「ウンカ類情報第6号（水稻・トビイロウンカ）」を参照してください。また、大口町に設置している予察灯において、9月8日に本虫1頭の誘殺が確認されています。

トビイロウンカがほ場に定着している場合、第3世代幼虫の成長期である9月から10月にかけて坪枯れが発生する可能性があります。収穫が近いほ場で坪枯れや坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く収穫しましょう。

トビイロウンカの防除適期は各世代の幼虫発生期となりますので、表に記載された時期を参考に防除を検討してください。薬剤については9月2日発表の「ウンカ類情報第5号（水稻・トビイロウンカ）」を参照してください。

表 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカ第三世代幼虫期の予測（9月16日計算）

飛来 予測日	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	新城	稲武	蒲郡	豊橋	伊良湖
6月22日 第三世代幼虫期	9月19日 ～10月9日	9月13日 ～9月30日	9月14日 ～9月30日	9月16日 ～10月4日	9月21日 ～10月13日	9月16日 ～10月5日	9月20日 ～10月11日	10月8日	9月15日 ～10月2日	9月11日 ～9月26日	9月11日 ～9月26日
6月25日 第三世代幼虫期	9月22日 ～10月14日	9月15日 ～10月3日	9月16日 ～10月5日	9月18日 ～10月5日	9月25日 ～10月20日	9月19日 ～10月9日	9月25日 ～10月19日	-	9月20日 ～10月9日	9月14日 ～10月1日	9月15日 ～10月2日

日本植物防疫協会提供の飛来解析で本県へ飛来したとされる6月22日、25日に本虫が飛来したと仮定して計算。各地のアメダスの毎正時平均気温から予測。

9月15日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

ニカメイガ

弥富市に設置している予察灯において、ニカメイガの誘殺が多い状況です。幼虫による被害が出る可能性があるため、ほ場での発生状況に注意し、発生が目立つ場合は収穫前日数を考慮して防除を実施しましょう。また、本種は収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬します。収穫後は、刈り株の早期すき込みや畦畔の除草を実施しましょう。

イネ白葉枯病

台風14号による大雨、強風により、さらなる発生拡大が懸念されます。本病の病原菌は水田畦畔のサヤヌカグサなどのイネ科雑草や被害わら等で越冬します。今作で被害が目立つ場合、次作の伝染源量を減らすため、年内の耕起や次作での育苗箱施薬等の対策を検討しましょう。

ダイズの害虫

8月下旬の巡回調査において吸実性カメムシの発生量は平年並ですが、名古屋地方気象台9月15日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本種の活動に好適な条件となる可能性があります。また、収穫済みの水田から近隣のダイズほ場にミナミアオカメムシ等が移動する可能性があるため、子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょ。

ダイズほ場でハスモンヨトウによる白変葉及び寄生を確認しています。また、シロイチモジヨトウの寄生も確認しています。いずれの種も、ふ化後しばらくは集団で生息し、齢期が進むにつれて次第に分散します。そのため、幼虫の寄生を確認したら、速やかに防除を行いましょ。なお、長久手市のフェロモントラップでハスモンヨトウが多く誘殺されているほか、西尾市のダイズほ場に設置したフェロモントラップでシロイチモジヨトウがやや多く誘殺されています。今後の発生状況に注意しましょ。

フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は平年並からやや少ない状況です。本種は子実も加害するため、今後の発生状況に注意しましょ。

果樹の病害虫

豊橋市及び新城市に設置した予察灯におけるの果樹カメムシ類の誘殺数は、平年並です。また、フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数も平年並です。しかし、一部地域で果樹カメムシ類による果実への被害が確認されているため、注意が必要です。名古屋地方気象台9月15日発表の1か月予報によると気温は高いと予想され、今後も果樹カメムシ類が活発に活動し、果樹園への飛来増加に伴う被害発生のおそれがあります。また、台風通過による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性がありますので注意しましょ。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は一部地域でやや多い状況です。特に西尾市では8月第6半旬から急増し、平年よりも多く誘殺されています。秋季はナシほ場への成虫の飛来が続くことがあるので、発生が多いほ場では収穫前日数に注意し、防除しましょ。

ブドウベと病については、8月下旬に実施した巡回調査で発病葉率がやや多い状況でした。早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょ。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょ。

モモせん孔細菌病については、病原菌が枝や落葉痕部の組織内で越冬し次作の伝染源になります。枝病斑の除去やICボルドー412などの農薬散布による収穫後の秋季防除を実施しましょ。

ハスモンヨトウの発生がやや多い

9月上旬の巡回調査において、キャベツほ場での幼虫の発生量は平年と比較してやや多い状況です。また、野菜類のほ場に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は一部ほ場でやや多く推移しています。詳細は、9月16日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

野菜類、花き類のチョウ目害虫

シロイチモジヨトウのキャベツほ場での幼虫の発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、フェロモントラップにおける成虫の誘殺数は、田原市のキャベツほ場などで多い状況です。早期発見に努め、防除を徹底しましょ。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。キャベツ

では結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、花蕾が食害されますので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

コナガのキャベツほ場での発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並です。ほ場をよく観察し、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

ハイマダラノメイガのキャベツほ場での発生量は、9月上旬の巡回調査ではやや多い状況です。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害に注意！

黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は、病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。名古屋地方気象台9月15日発表の1か月予報によると、降水量は多い見込みです。また、台風14号が東海地方付近を通過することが予想されています。細菌性病害の発生に好適な条件になると予想されるので、事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病に注意！

イチゴの炭疽病は、7月下旬の巡回調査で発生量が多い状況でした。炭疽病は、気温が高いと発生が助長されます。名古屋地方気象台9月15日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、注意しましょう。また、炭疽病は風雨で周辺に拡大するので、育苗ほでの発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状が無くても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。本ほで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。防除対策等は8月2日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第4号」も参考にしてください。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820